

第六回 松阪市民能

午後四時三〇分開場
午後五時開演

開会挨拶

第一部

独 鼓(若葉会)

紅葉狩クセ

船弁慶クセ

半 蔀キリ

野 宮キリ

歌 占キリ

仕 舞(竹謡会)

山 姥クセ

舞囃子(若葉会)

松 虫

大鼓 河村 大

小鼓 森田佳奈

仕 舞(松阪商工会議所)

春日竜神

屋 島

胡 蝶

錦 木

鞍馬天狗

大北 京子

小川とし子

鈴木 とし

山川 俱子

奥村 真弓

伊藤 愛子

日野 敦子

苗 森田保美

YEG伝統文化研究会

宮下 慎也

野呂 英旦

竹本 匡博

片上聡一郎

森 靖治

挨拶

午後六時三〇頃

第二部

仕 舞 砧 前

片山九郎右衛門

地謡

大江 信行
分林 道治
味方 玄
橋本 光史

お話し

橋本 光史

午後七時頃

能 楽

女御 古橋 正邦

前山科庄司
後庄司の七霊 青木 道喜

恋重荷

院の臣下

原 大

大鼓 河村 大

太鼓 前川 光範

問狂言(下人) 小笠原 匡

大江 信行

後見 片山九郎右衛門

岡田 照正

地謡 朝倉 秀雄

橋本 忠樹

橋本 光史

味方 玄

分林 道治

午後八時半ころ 終了予定



能 恋重荷 こいのおもひ

前場 菊を寵愛する白河院の庭で、毎年菊の下葉取りをしていた山科莊司という老人がいました。老人はある時、白河院の女御の姿を垣間見て以来、恋わずらいになってしまいます。その噂を聞きつけた院の臣下は莊司を呼び出し、噂の真偽を問いただした後、女御の言葉を伝えます。それは、錦で美しく包まれた荷「恋の重荷」を持つてこの庭を百回も千回も巡るなら、その間女御が姿を見せようというものでした。

莊司は勇んで荷を持ち上げようとしませんが、荷は重くびくともしません。老人はついに力尽き、女御を怨みながら失意の中で息絶えてしまいます。

後場 莊司が亡くなったと聞き、臣下は不憫に思います。実は重荷は錦で包んだ巖。とうてい老人には持ち上げられない物で、莊司に恋を諦めさせるための方便だったのです。臣下は、こうした者の一念は恐ろしいから、一目見てやるように女御に勧めます。女御はさすがに哀れに思われ、重荷の所へ行き、「恋よ恋、我が中空になすな恋」と悼み、やがて立とうとしますが、磐石に押さえつけられたように動くことが出来ません。そこへ莊司の亡霊が現れ、女御に詰め寄り、恨みを述べて責め苦しめます。

しかしやがてその心も和らぎ、跡を叩いてくれるなら恨みも消え、千代までも女御の守り神になろうと告げ、姿を消します。

会場のご案内

農業屋コミュニティ文化センター

〒515-0818 三重県松阪市川井町 690 TEL. 0598-23-2111

■公共交通機関をご利用の場合

[三重交通バス利用]近鉄・JR松阪駅のJR改札口側バスターミナル2番のりばから「松阪中央病院行き」に乗り、[文化会館]下車すぐ。(所要時間/15分)

[市街地循環バス「鈴の音バス」利用] 近鉄・JR松阪駅から左回りで「市民文化会館」下車すぐ。(所要時間/約15分)

■お車でお越しの場合

伊勢自動車道松阪インターを降り、そのまま直進していただくと商業施設パワーセンターが見えてきます。その信号左折し、次の信号を右折すると会館が見えます。(松阪インターより約5km、所要時間/約7~8分) ※クラギ文化ホール、農業屋コミュニティ文化センターは同一敷地内で、駐車場も共用です。

松阪市民能についてのお問合せは 松阪能楽連盟(上森)まで TEL. 0598-23-1935

